ウッドバッジ実修所
「課題研究」「実務訓練」
支援の手引き

（令和８年度版）

公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟

目　次

ウッドバッジ実修所の訓練と本書について . . . . . - 1 -

Ⅰ　参加希望者への支援 . . . . . - 2 -

１．ウッドバッジ実修所への誘い . . . . . - 2 -
２．実修所のガイダンス . . . . . - 2 -
３．ウッドバッジ実修所課題研究への取り組み . . . . . - 3 -
４．「課題研究」課題の指導の要点とまとめ方 . . . . . - 3 -
⑴ ビーバースカウト課程 . . . . . - 4 -
⑵ カブスカウト課程 . . . . . - 7 -
⑶ ボーイスカウト課程 . . . . . - 9 -
⑷ ベンチャースカウト課程 . . . . . - 11 -
５．「課題研究」の書式 . . . . . - 13 -
６．第一教程（課題研究）履修認定と手順について . . . . . - 13 -

Ⅱ　第二教程（基本訓練）履修者への支援 . . . . . - 14 -

１．第二教程（基本訓練）セッションの目標 . . . . . - 14 -
２．第三教程（実務訓練）の取組みにあたって . . . . . - 20 -
３．「第三教程（実務訓練）」支援の要点 . . . . . - 20 -
⑴ビーバースカウト課程 . . . . . - 21 -
⑵カブスカウト課程 . . . . . - 22 -
⑶ボーイスカウト課程 . . . . . - 23 -
⑷ベンチャースカウト課程 . . . . . - 24 -
４．第三教程（実務訓練）履修認定と手順について . . . . . - 25 -
５．ウッドバッジとギルウェルスカーフについて . . . . . - 26 -

おわりに . . . . . - 27 -

参考資料

課題研究提出用紙　ウッドバッジ実修所第一教程（課題研究）. . . . . - 28 -
団委員実修所第三教程（実務訓練）課題 . . . . . - 29 -
団委員実修所第三教程（実務訓練）表紙 . . . . . - 30 -
第三教程（実務訓練）履修認定手順と書式について . . . . . - 32 -
実務訓練履修認定手順〈フロー〉. . . . . - 34 -

ウッドバッジ実修所の訓練と本書について

指導者訓練体系では、隊指導者訓練の組み立ては、導入訓練課程、基礎訓練課程、スキルトレーング、上級訓練課程、ウッドクラフトコースにより構成されています。

このうち上級訓練課程であるウッドバッジ実修所では、スカウト運動の価値を再認識し実践するために、運動の正しい活動方法を理解し、実体験を通して、より実践的に、スカウト達が活動する内容を指導者として身につけていただくように設定しました。訓練を効果的に展開するために第一教程：課題研究、第二教程：基本訓練（３泊４日又は４泊５日野営）、第三教程：実務訓練として、自隊で取り組んだ結果を報告することが設定されています。研修所とは異なり実修所では、第三教程（実務訓練）の履修をもって実修所の修了が認定されます。

第一教程（課題研究）の履修の認定はトレーナーが行い、第三教程（実務訓練）の履修認定は県コミッショナーが行います。ですが、コミッショナーには第二教程（基本訓練）参加前から第三教程（実務訓練）まで一貫して関わり、参加者が第二教程（基本訓練）で得た内容の展開や、持ち帰った課題などに自隊で取組むことによって、より効果的な隊運営ができるよう的確な支援をお願いいたします。

（コミッショナーのみなさまへ）

ウッドバッジ実修所　第二教程（基本訓練）は、当該隊の指導者として、基本的な隊運営方法、プログラム展開方法など、プログラムだけに特化することなく、隊を運営していくための、あらゆる事に対して能力向上を目指すため、「自隊の様々な問題解決」についても、隊指導者が日常の活動の中で解決していけるように支援していただく「任務中の支援」が今まで以上に重要な支援として、指導者が必要な時に、必要とされる支援として考えています。定型訓練に参加することも、この任務中の支援の一環としてお考えいただき、コミッショナーの皆様には、隊指導者とのコミュニケーションを深める絶好の機会として、積極的に支援して頂くことが期待されます。

本書は、支援するコミッショナー（以下、支援コミッショナーという）とトレーナー（以下、支援トレーナーという）の支援が効果的に実施できるように、「課題研究」と「実務訓練」のねらいと支援のポイントを明確にし、共有することを意図して作成されています。

Ⅰ　参加希望者への支援

１．ウッドバッジ実修所への誘い（コミッショナー）

ウッドバッジ実修所への誘いの第一歩は、ウッドバッジ研修所スカウトコース・課程別研修で所長・主任講師から上級訓練であるウッドバッジ実修所についての誘いがあります。ここでは研修所で学んだことをもとに、最低一年間のプログラム展開を経験した隊指導者を対象としており、当該部門の隊長としてのプログラム推進能力を高めるための訓練が準備されていることをお知らせします。

研修所を履修された隊指導者は、普段の活動での疑問点や改善点を団内外の先輩指導者やコミッショナーからの指導を受けると共に、地区等で開かれるラウンドテーブルや各種の定型外訓練への参加のほか自己研修により解決の道を探ります。

これらの多くの機会を活用してコミッショナーは、それぞれの隊指導者の状況に応じて実修所参加による問題の解決や指導技術の向上を促し、課題研究について取り組むよう、機会あるごとに隊指導者たちに働きかける必要があります。

２．実修所のガイダンス（トレーナー）

隊指導者に実修所への興味を抱かせることの第一歩として、実修所における訓練内容や生活について情報を提供する必要があります。

ポイントとしては

① 実修所の組み立て

実修所は、「第一教程（課題研究）」と「第二教程（基本訓練）（３泊４日又は４泊５日の野営）」と「第三教程（実務訓練）」によって成り立っていることなど全体像を把握させてください。

② ウッドバッジ実修所第二教程（基本訓練）の目的

主にプログラム推進能力を高めることを目的としています。

スカウティングらしいプログラムが企画できるようになり、その中でスカウト、保護者および地域社会に受け入れられるために必要なアプローチについても学びます。

③ 学習の目標

ウッドバッジ実修所の参加者は、このコース修了後、次のことが達成できる。

１．　スカウティングの原理に則ったプログラム展開ができる。
２．　ニーズと個人の進歩を考慮した計画、活用ができる。
３．　プログラムの評価、改善ができる。
４．　指導者の役割と責務について理解し、隊運営ができる。
５．　保護者及び地域社会に対するアプローチを効果的に実施できる。
６．　野外での体験を通してスカウティングの本質の理解を深めることができる。

自隊の課題、問題点の改善や解決を図り、自隊の隊運営、特にプログラムプロセスに反映させることに意義があります。従って、参加者が所属している部門の実修所へ参加することを前提とします。

④ 学習の概要

参加型学習について、当該部門のセッションの構成と内容、グループワーク、班担当、研修所との違いなどについて簡単にお話下さい。

⑤ 実修所での生活

キャンピング、食事、入浴など生活全般、参加者同士の交流、現地の状況など体験を通じてお話下さい。特にキャンピングは、スキルトレーニングで学んできた技能を活用して、充実した野営生活を目指していきます。

⑥ 第二教程（基本訓練）の開催時期

今から課題研究に取り組み、仕事や学業のスケジュール調整により参加可能な当該部門の実修所開設時期についてスケジュールも含めてお話下さい。

⑦ 第二教程（基本訓練）の申込期限

参加申込期限は基本訓練開始日の約１か月前となっていますので、所属県連盟の事務的手続き等の期間も考慮して課題研究への取り組みを指導してください。

⑧ その他

コミッショナーご自身の体験から参考になる事柄についてお知らせください。
ガイダンスに当たっては、当該課程の基本日程表、野営場案内図、写真等を活用すると実修所への興味や参加意欲の高揚を図れると思います。

３．ウッドバッジ実修所課題研究への取り組み（コミッショナー、トレーナー）

参加希望者の課題研究への取り組みに当たっては、直接指導するほか必要に応じて所属県連盟のトレーニングチームと連携のうえトレーナーを紹介し、参加希望者に各種の支援が受けられるようにして下さい。

個別支援の要請を受けたトレーナーは、コミッショナーと協議のうえ参加希望者と面談し、隊の状況や活動の状況、スカウト数など参加者の背景を把握した上で、参加者と一緒になって課題研究に取り組む必要があります。

一般的な成人の特性として、「指導者自らが納得もしくはその必要性を感じなければ、参加意欲が少なく、積極的に課題に取り組まない」と言われています。このため、普段の活動や隊運営の中で不安や疑問に思っていることについて、「実修所に参加することによって何かをつかめるのでは」、「状況を改善するきっかけになるのでは」という気持ちに導くことが大切です。またスカウト達により楽しく興味が湧くスカウティングを提供するためにも、実修所に参加して他の参加者やスタッフと交流しながら、情報を交換することの意義と重要性を知らせることも必要です。

参加希望者は、学生あるいは社会人として様々な社会的な経験を持っているため、性急な課題研究への取り組みは、参加意欲の低下や訓練ニーズの抽出が中途半端なものとなる危険性があることを理解する必要があります。また、そのような課題研究の取組みでは、訓練の効果が充分ではないものとなってしまう恐れがあります。このため特に余裕を持って課題研究に取り組める時間的配慮をぜひお願いします。

４．「課題研究」課題の指導の要点とまとめ方

「課題研修」ではなく「課題研究」ですので、取り組んだことを列挙するだけではなく、そのことに対して自分の考えや意見をまとめるように指導して下さい。

課題研究は部門ごとに６つの課題で成り立っています。各課程によって多少の違いはありますので、課程ごとに支援のポイントを示していきます。

支援コミッショナーと支援トレーナーが課題研究の支援をして、「指導・助言した内容」欄に所見を記載する際には、課題研究の内容が支援した内容に修正されていることを確認して提出させてください。

(1) ビーバースカウト課程

【支援のポイント】

課題１：①自隊における保護者のニーズを調査し、集約してください。また、調査した方法も書いてください。 ②自隊のスカウトを観察し、スカウトが興味ある事柄を列挙してください。

スカウトや保護者のニーズをプログラムに取り入れることは、スカウトが楽しめ、保護者に受け入れられるプログラムを考えるときの前提となります。そのために、課題研究の第１は、ニーズの集約から始まります。

第二教程（基本訓練）では、各種ニーズをどのように魅力あるものに膨らませてプログラムを企画していくか、ということを考えていきます。

第三教程（実務訓練）では、基本訓練で行った手順・手法をもとに、ご自身の隊で実践していただきます。

① は保護者のニーズの集約です。ビーバースカウト年代にあっては、保護者のニーズが特に重要となってきます。保護者のニーズとは、保護者の方々の「子どもにこんな風に育って欲しい。」という願いがこれに当てはまります。

もしかすると、「こんなことをさせたい」「あんなことを体験させたい」という具体的な希望が出てくるかもしれませんが、その奥にある「子どもにこんな風に育って欲しい」という部分を推測しなければ、ニーズにはつながらないでしょう。そのためにも積極的なコミュニケーションが望まれます。また、この年代にとって、積極的に保護者とコミュニケーションをとることは、この活動への理解を得るためにも必要なことです。

その点においても、調査する方法はいろいろあると思いますが、どのように調査したのか列記していただくようご指導ください。

② はスカウトのニーズの集約です。この年代の子どもたちは、自分たちのニーズというものがあまりはっきりしていません。ですから、直接スカウトにニーズを聞くよりも、スカウトの状態をよく観察し、興味のあること、夢中になっていることなどを見つけることで、ニーズを見つけることができます。

① ②とも、実際の現状や行動・活動を列挙したうえで、自分の意見として保護者のニーズ、スカウトのニーズとしてまとめ、そのうえでこのニーズを活かしたプログラム・アクテビティなどを自分なりに研究するようご指導ください。

＜まとめ方＞

様式はありませんので、箇条書きで記述させてください。

課題２：課題１のニーズ等にビーバースカウト隊の活動の目標を加味し、自隊で実施する隊集会実施計画書（１回分）を作成してください。

この課題では、課題１で集約したニーズをうけて、仮想でよいので2時間程度の隊集会を考えます。この時、この年代の特性やニーズにビーバースカウト隊の活動の目標を加味することは、もともとのニーズをどのようにして実りのあるものに発展させて、豊かな（スカウトにとっては楽しい、教育的効果のある）プログラムにしていくのかに関わってきます。

今まで隊集会実施計画書を書いたことのない指導者の方も、一度ご自身で作成させてください。

用紙については、ご自身の隊で使われている様式でも構いませんが、リーダーハンドブックに記載されている隊集会実施計画書のポイントが漏れていないか、チェックしていただきます。

作成した際に、難しかった点、悩まれた点は、課題６の所につながります。

第二教程（基本訓練）では、参加者の皆さんと「ニーズ」を活かしたプログラム立案を行い、それを「隊集会実施計画書」として作成します。

第三教程（実務訓練）では、ご自身の隊の「隊集会実施計画書」として作成したものを実施します。

そのためにも、基本訓練に参加される前に作成の仕方の復習もかねて、作成していただくようご指導ください。

＜まとめ方＞

ビーバースカウト隊リーダーハンドブックの様式に沿って作成させてください。
作成した隊集会実施計画書は添付して提出してください。

課題３：自隊の年間プログラムを評価します。隊集会ごとに評価し、問題があれば改善策とその理由を示してください。（年間プログラムを添付してください。）

この課題では、自隊の年間プログラムの問題点に気づいてもらうことを狙っています。何が問題なのかを評価できればよいのですが、参加者の経験によっては、問題があることがわからない。といった場合も考えられます。そのため、活動内容、活動目標、進歩課程などについてビーバースカウト活動に照らし合わせて見直すことにより、問題がはっきりしてくるでしょう。また、改善する方法も記述しますが、なぜその方法をとるのか、そのことによってスカウトにどのような効果が期待されるのかを考えながらまとめることを指導してください。

第二教程（基本訓練）では、参加者の皆さんと年間プログラムを作成します。その際に手順やポイントが全く分からないと困りますので、ご自身の隊の年間プログラムを振り返り、評価を通して年間プログラムについての復習をしておいていただきます。

第三教程（実務訓練）では、直接年間プログラムにつながる課題はありませんが、ご自身が課題３、基本訓練を通して年間プログラム作成における課題に気づかれた場合、実務訓練の中で取り組むことも考えられます。ですので、課題３の研究を通して、ご自身の問題点になりそうなところをあぶりだしておくことが必要です。

＜まとめ方＞

隊集会ごとに①現状 ②問題点 ③改善点 ④改善策 ⑤得られる教育的効果の順で一覧を作成させてください。

各隊集会を評価した後、年間プログラムを振り返り、①現状 ②問題点 ③改善点 ④改善策を作成させてください。

また、自隊の年間プログラムを添付させてください。

課題４：① 団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。
② 課題２の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。

この課題は**全課程共通**です。指導者訓練体系では指導者の養成については、個々の指導者の置かれたそれぞれの環境において、スカウトによりよい活動を提供できるよう、それぞれの地域で継続的に指導者を支援していく「任務中の支援」について総合的にとらえました。

この「任務中の支援」の中心にあるのが団です。（定型訓練、定型外訓練等もそのサポートの一環としてとらえています。）そのために、団は自分にどのような支援（手助け）をしてくれるのだろうか。といったことを理解してもらうために団会議、団委員会の機能と役割を理解してもらいます。この課題を通じて、「任務中の支援」について参加者に理解してもらうことが大切です。

その「任務中の支援」を具体的にどのように受けることができるかを考えるのが②の課題です。団委員会やその他、とあるように、団委員会だけでなく、保護者、団外の人、コミッショナー、トレーナー、地区、県などなど多方面からの支援が可能となってきます。どこから、誰から、どのように（どのような）支援を受けることができるのかを具体的に考えることができるように、ヒントを提示しながらご支援下さい。ここについては、ご自身の事に限らず、隊の集会を実施する際にどのような支援が得られるのかについても研究していただきます。

＜まとめ方＞

①は、機能と役割をそれぞれ列挙させてください。

②は、課題２の隊集会に必要な支援を項目立てし、誰から支援を受けるのかを項目ごとに記載させてください。これまで受けた支援の内容や必要と思われた支援についても整理させてください

課題５：スカウトを集会に参加させるために自隊で工夫していることを記述してください。さらに今後工夫しようと考えていることがあればあわせて記述してください。

ビーバースカウト年代においては、毎回の隊集会に参加することこそが大切なことです。活動が楽しくなければ参加しません。さらに、保護者の送り迎えを考えたとき、保護者に受けいれられる活動であるかということ大切なことです。

この課題では、実際にやったこと、やっていることを記述し、さらに発展してやれると思うことを研究していただきます。

＜まとめ方＞

工夫している点を箇条書きに記述させてください。

課題６：プログラム作成において、自身が解決したい問題について列挙してください。

これは研究課題というものではありませんが、当該コースの研修ニーズを出していただくものです。あくまでもプログラム作成に特化した課題を書かせてください。他の課題は任務中の支援より県連盟等での対応をお願いします。

また、課題１～５に取り組んだ際にわからなかったこと、難しかったこと、できていなかったこと、より学びたいと思ったことなどを書き出します。

＜まとめ方＞

箇条書きにさせてください。１文に１ニーズとします。語尾を明確にしてください。

（「理解したい」「身に付けたい」「知りたい」等）

(2) カブスカウト課程

【支援のポイント】

課題１：①自隊における保護者のニーズを調査し、集約してください。また、調査した方法も書いてください。
②自隊のスカウトの憧れや興味を調査し、集約してください。
③地域社会におけるカブスカウト隊に対する期待を調査し、集約してください。

この課題は、スカウトのニーズ・保護者のニーズ・地域社会のニーズなどをどのようにプログラムに発展していったらよいかを考慮して各種計画書に反映するものです。カブスカウト年代になると、自分のニーズといったものが具体的に出てきます。また保護者は抽象的に「こんな子供に育ってほしい」という願いになるでしょう。そして地域社会では具体的な奉仕活動が出てくるのかもしれません。

大切なのは、これらニーズをそのままプログラムにするのではなく、指導者が工夫を凝らすことによって、スカウトにとっては魅力あるプログラムとなっているかということです。そのための基礎的な理解を促すための課題です。

特に親や地域のニーズについては、抽象的な表現になることが予想されます。そこから具体的な活動を研究させてください。

＜まとめ方＞

箇条書きで構いません。３つのジャンルに分けて記載させてください。親や地域のニーズに対しては、達成可能な活動を明記させてください。

課題２：隊集会を行うためのプログラムプロセスを図示し、留意点を記述してください。

プログラムプロセスとは、プログラムの立案からプログラムの実施、プログラムの評価反省までのプログラムに関わる一連の流れや人的管理を含むもので、その手法を採用する意義は、プログラムを作成する手順を示し、各段階における留意・注意点を明確にでき、その時点での修正を客観的に行うことができることにあります。人的・物的管理もこの中に含まれます。

カブスカウト活動は、組が中心です。隊集会は積み重ねた組集会の成果を発表する場です。

隊集会を行うために、どのようにプログラムプロセスを活用するとよいのかを考え、図示するものです。スカウトの成長やカブスカウト活動を考えたとき、どのような流れで隊集会につなげていったらよいのかを考えます。テーマを膨らませるための会議、プログラム委員の活用などにも留意する必要があるかもしれません。

留意点については、スカウトをわくわく、どきどきさせる活動を提供するためにプログラムプロセスの各会議・集会で、どのような注意点・留意点に気をつければよいかについて考えていきます。リーダーハンドブックを参考にまとめさせてください。

＜まとめ方＞

時系列にプログラムプロセスを図示し、その脇に留意点を記載させてください。

課題３：課題2で示したプロセスと自隊のある月の月間プログラムのプロセスを比較し、問題があれば改善案とその理由を示して下さい。（プログラムプロセスには、リーダー集会・デンコーチ集会・組長集会・組集会（１回～２回）・隊集会が含まれる。）

この課題は、課題２と現状との比較になります。参加者が問題に気づいてない場合がありますので、気づかせてあげることが必要です。スカウトのニーズ・保護者のニーズなどが年間テーマ会議の段階で盛り込まれているか、それぞれの会議や集会が自隊で行われているのか、いないのか、その問題点は何なのか、改善すべき点は何かを書かせてください。

＜まとめ方＞

隊集会実施計画書を添付し、①現状②問題点③改善点の順で一覧を作成させてください。

課題４：① 団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。
② 課題３の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。

５ページ参照

注：カブ課程は、「② 課題３の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述して下さい。」となります。

課題５：カブ隊の活動目標や進歩のあり方について、自隊の年間計画をふりかえり、その改善点を考えてください。（年間プログラムを添付してください）

年間計画において、隊で修得すべき課目、課程で修得すべき課目を明確にすることが大切です。修得課目は年度の前半で完修できるように、年間プログラムに反映させなくてはなりません。課目とプログラムとの整合性やカブ隊の活動目標等のバランスのよい配置がなされているでしょうか。バランスが良くなければ、どのように改善したらよいのかを考えさせて下さい。

＜まとめ方＞

文章化させた表現でかまいません。修得課目との整合性や、活動目標とのバランスが悪ければ、今後どのように取り組むのかを書かせてください。
年間プログラムを添付させてください。

課題６：全課程共通

6ページ参照

(3) ボーイスカウト課程

【支援のポイント】

課題１：班長会議を開催し、スカウトの憧れや興味を新たに集約し、 ①隊集会　②班長訓練　の各計画書を作成してください。

スカウトのニーズを集約し、指導者としてどのように工夫をこらしスカウトにとって興味あるものに発展させていくか。充実した隊集会を行うためには、班集会がしっかりと行われる必要があります。そのため、班長の役割はとても重要です。１サイクル分（１回分）の計画書を作成するように指導してください。

＜まとめ方＞
リーダーハンドブックの様式を活用して作成させてください。

課題２：①ボーイスカウト隊リーダーハンドブックを熟読し、プログラムプロセスを図示し、留意点を記述してください。（プログラムプロセスには、班集会、班長会議、班長訓練、班集会（班の活動）、隊集会が含まれていること） ②自隊で行われているプログラムプロセスを図示してください。

ボーイスカウト課程の隊集会は班の競争の場であるといえます。隊集会で勝つために、班で秘密の訓練をする。班が班長を中心にうまく機能するために、プログラムプロセスがどのように流れたら効果があるか。そのために留意する点をまとめます。

＜まとめ方＞
① 時系列にプログラムプロセスを図示し、その脇に留意点を記載させてください。
② 「リーダーハンドブック記載のプログラムプロセス」と「自隊の現状」とを比較できるよう並べて記載させてください。

課題３：自隊の現在の年間プログラムを活動内容および進歩課程の観点から評価し、改善点を記述してください。

ビーバースカウト課程、カブスカウト課程の課題３と共通。自隊の年間プログラムの問題点に気がつかない場合もあります。また、問題を感じていても改善するためにどうしたらよいのかに気づきにくい場合もあります。このような場合、支援者からの助言によって気づくこともあると思います。

＜まとめ方＞
隊集会ごとの活動内容の概要と評価を箇条書きにし、それぞれに対してスカウトの進歩がどのように取り組まれていたかを記述させてください。また、自隊の年間プログラムを添付させてください。

課題４：①団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。

②課題１の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。

５ページ参照

課題５：実際に行われた隊集会１回分について、想定文を含めた計画書を持参するとともに、プログラムプロセスの各過程それぞれの評価と改善点を記述してください。（行われていないプロセスの過程については行うための改善策を記述してください。）

ここでは、一連の課題研究課題で研究した隊集会までのプログラムプロセスと、実際に行った自隊の隊集会までのプログラムプロセスの違いが明らかになってくると思います。プログラムプロセスの各過程においてどんな問題点があるのか。改善することによってスカウトの自主活動がどう促進されていくかをあわせて考えてみることは、第二教程（基本訓練）での研修がより深まることと思います。 自隊での課題が明確になるよう、助言してください。

＜まとめ方＞

隊集会ごとに①現状 ②問題点 ③改善点 ④得られる教育的効果の順で一覧を作成させてください。また、想定文を含む自隊の隊集会プログラムを添付させてください。

課題６：全課程共通

６ページ参照

(4) ベンチャースカウト課程

【支援のポイント】

課題１：スカウトのニーズにより作成された隊集会、またはプロジェクトの計画書作成までの間において、隊長として留意し、指導した点を記述してください。

隊集会・プロジェクト、どちらの計画でも良いので、隊長としてどのような点について支援・指導したかを詳しく書き出してもらいます。

＜まとめ方＞
隊集会計画表・プロジェクト計画書を添付し、隊長としてどのような点をどのように指導をしたのか、またその理由についても記載するように指導してください。

課題２：ベンチャースカウト年代の特性を理解し、自治の活動により個人の成長を図るために、隊長の役割を果たす上で資質を向上するための自己研修をおこない、その内容･結果をまとめてください。

ベンチャースカウト活動は、より高度に、専門的に、そして社会的にメッセージ性の高いものとなってきます。自治の活動が中心となるスカウト達に接するためには、様々なスキルが必要となってくると思います。スカウトが求めるものを提供できるようにするために必要な技能から、スカウトのニーズを発展させていくためのコミュニケーション技能など、ベンチャースカウト活動や年代の特性を考えたら様々な研修の必要性が理解できることでしょう。スカウトの成長を見すえて、隊長として、何の研修の必要性を感じ、実際に行ったのか。その内容・結果をまとめることがこの課題です。

＜まとめ方＞
①スカウトが求めたもの②隊長として自身に必要だと考えた研修③その内容と結果を一覧にして記載させてください。

課題３：隊における役割（議長、グループのチーフ、記録、会計等）を遂行するために必要な、スカウトに対する訓練をまとめてください。

先にもの述べましたが、ベンチャースカウト活動は自治の活動です。それぞれが自分の役割に責任を持って活動に参加できる。そのために、隊長はスカウト個々人が役割を果たすことができるように指導・助言をしていかなくてはなりません。スカウトが身につけてほしいものは何か。そこからスカウトに対する訓練を考えて見ることが必要です。

＜まとめ方＞
①隊でのスカウトの役割　②身につけて欲しい内容を一覧にして記述させてください。

課題４：①団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。
②課題１の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。

５ページ参照

課題５：ベンチャー隊の活動におけるプロジェクトとは何か、あなたの考えをまとめてください。

ベンチャースカウトの活動には、隊集会とプロジェクトがあることはご承知のとおりです。それぞれの活動は、違ったプログラムプロセスを持ち、スカウトの成長に関与しています。隊集会＝プロジェクトではないのです。そのことを念頭に置いて、ベンチャー年代のスカウトにとって、プロジェクトを遂行していくことはどのような意味があるのかを今一度考えてみることも必要かもしれません。その上で、隊長として「こうスカウトが育って欲しい」という思いを加味させて課題に取り組んで欲しいものです。

＜まとめ方＞
特に様式はありませんが詳しく書くように勧めてください。

課題６：全課程共通

6ページ参照

５．「課題研究」の書式

様式については特に決まりはありませんが、Ａ４判の用紙に横書きで課題毎に記述し、左綴じとしてください。また「ウッドバッジ実修所第一教程（課題研究）」の表紙に必要な事項を記載し表紙として下さい。参加申込に当たっては「ウッドバッジ実修所第二教程（基本訓練）参加申込書」をその上に付けてください。

課題研究表紙には、課題ごとに指導をして下さった方のお名前と、指導・助言した内容を書くことになっています。課題研究の認定はトレーナーです。

支援トレーナーは課題研究表紙の認定トレーナーの欄に、トレーナーの名前と日付を記入します。

指導者手帳については、個人の記録手帳なので、ご本人に書いてもらうようご指導ください。但し、申込時には指導者手帳は提出する必要はありませんが、基本訓練に参加時は提出が必要になりますので、それまでに書いておくようお知らせください。

６．第一教程（課題研究）履修認定と手順について

手順１：参加希望者

↓ 支援トレーナーのガイダンスを受けて、支援者（コミッショナーやトレーナー）の支援に
より課題研究に取り組む。

手順２：支援トレーナー・支援コミッショナー

↓ 提出された課題研究の内容を確認し、「支援の手引き」に沿って指導・助言した内容を課題研究提出用紙の「指導・助言した内容」欄に記入する。

手順３：参加希望者

↓ 支援トレーナー・支援コミッショナーの指導・助言を受けて課題研究の内容を修正して支援トレーナー・支援コミッショナーに再度提出する。

手順４：支援トレーナー・支援コミッショナー

↓ 課題研究の内容が指導・助言した内容を反映して修正されていることを確認する。

手順５：支援トレーナー

↓ 履修認定を行い課題研究提出用紙に署名して、参加希望者に返送する。

手順６：参加希望者

「WB実修所第二教程（基本訓練）参加申込書」、「課題研究提出用紙」と課題研究内容をまとめた書類を所属県連盟の定めるところにより期限までに提出させてください。

Ⅱ　第二教程（基本訓練）履修者への支援

１．第二教程（基本訓練）セッションの目標

ウッドバッジ実修所第二教程（基本訓練）は、当該隊の指導者として、基本的な隊運営方法、プログラム展開方法など、プログラムだけに特化することなく、隊を運営していくための、あらゆる事に対して能力向上を目指すため、「自隊の様々な問題解決」についても、隊指導者が日常の活動の中で解決していけるようを目指します。

第一教程（課題研究）及び第三教程（実務訓練）の支援にあたっては、第二教程（基本訓練）のセッションの目標との関連性をご理解いただき支援してください。

(1) ビーバースカウト課程

セッション名	目　　標
§1 実修所について	1. ウッドバッジ実修所の目的と目標を理解する。 2. ウッドバッジ実修所の運営を理解する。 3. コースの日程を理解する。
§2 指導者の役割と責務	1. 自隊の課題を認識し、主体的に解決する意欲を持つ。
§3 ビーバースカウト隊の隊集会	1. ビーバースカウト隊の隊集会の流れについて理解する。 2. ビーバースカウト隊の隊運営の方法について認識する。
§4 隊運営の共通理解	1. ちかいとおきての理解を深める。 2. スカウティングにおける一貫性について認識を深める。 3. ビーバースカウト隊におけるスカウト教育法の運用について認識する。
§5 ビーバースカウト隊のプログラム	1. ビーバースカウト部門におけるプログラムプロセスについて認識する。 2. 活動目標とプログラムの関係を認識する。 3. より良いプログラムのための要素や年代特性について認識する。 4. ビーバースカウト部門における年間プログラムの目的と作成方法を認識する。
§6 隊集会実習Ⅰ	1. 隊指導者として隊集会プログラムを実施運営できる。
§7 保護者・地域社会へのアプローチ	1. 保護者のニーズ、地域社会のニーズについて認識する。 2. 保護者とのコミュニケーションの重要性を認識する。 3. 保護者とのコミュニケーションを豊かにするための心構えとその具体的方法を理解する。 4. 保護者のスカウティングに対する理解や信頼度を高めるための具体的な手立てができる。 5. 地域社会との協同を意識した活動が重要であることを理解する。
§8 プログラム企画Ⅰ(	1. ビーバースカウト年代の特性や興味・ニーズについて認識する。
§9 プログラム企画 II	1. ビーバースカウトのニーズを十分に活かした隊集会プログラムを組み立てることができる。 2. 保護者のニーズ、社会のニーズを活かした隊集会プログラムを組み立てることができる。 スカウト教育法や活動目標に基づく隊集会プログラムを組み立てることができる。
§10 隊集会計画Ⅰ	1. 充実した隊集会実施計画書を作成できる。

§11 プログラム展開の準備	1. 隊集会を充実させるためのさまざまな資源の活用方法について認識する。 2. プログラム展開をより豊かにする工夫と準備ができる。
§12 隊集会実習 II	1. 隊集会実施計画書に基づいて隊集会を効果的に実施できる。
§13 プログラム評価	1. プログラムを評価することの重要性を認識する。 2. プログラムを評価する際の観点と評価方法について認識する。 3. 隊集会プログラムの評価ができる。
§14 プログラムへのアプローチ	1. 活動への参加意欲を高めるための具体的な手立てができる。
§15 隊集会計画 II	1. 自隊で実施する隊集会プログラムを作成する。
§16 第三教程(実務訓練)に向けて	1. 本研修をふりかえり、訓練ニーズを評価する。 2. 「実務訓練」のねらい、意義、その具体的な取り組み方法を理解する。 3. 任務中の支援について理解する。

(2) カブスカウト課程

セッション名	目　　標
§1 実修所について	1. ウッドバッジ実修所の目的と目標を理解する。 2. ウッドバッジ実修所の運営を理解する。 3. コースの日程を理解する。
§2 指導者の役割と責務	1. カブスカウト隊の運営に必要な知識と技能を理解し、実践できる。 2. 自己の訓練ニーズを整理し、自分自身がコースで学ぶべき内容を明確にし、主体的に解決する意欲を持つ。 3. ちかいとおきての理解を深める。
§3 カブスカウト隊のプログラム I	1. カブスカウト隊の集会(組集会・隊集会)を体験し、自隊の組織と運営上の問題点と課題を認識する。 2. 実施した集会について、自隊との違いについて評価する。 3. 「カブスカウト活動の目標」がプログラムに深く関わっていることを理解する。
§4 カブスカウト隊のプログラム II	1. カブスカウト活動の基本的なプログラムプロセスを再確認し、より深く理解する。 2. カブスカウト部門のプログラムの特徴をより深く認識する。 3. カブスカウト隊におけるスカウト教育法の運用について認識する。
§5 プログラム企画 I[ニーズの反映]	1. プログラムプロセスにおいて、スカウトの興味や憧れ・保護者・社会・スカウト運動のニーズを活かす方法を認識する。 2. 年間計画に、カブ隊の活動に相応しい活動目標を設定することができる。 3. テーマの意義を理解し、スカウトにとって魅力ある、期待が高まるテーマが作成できる。
§6 プログラム企画 II[プログラムの立案]	1. スカウトスキルを活用したカブ部門に相応しいプログラムを企画できる。 2. プログラム委員(会)のアイデアを活かし、より楽しい多様なプログラムを企画することが出来る

	3. テーマを活かし、技能・工作・ゲーム等を利用した多彩な野外活動プログラムを計画することができる。
§7 プログラムへのアプローチ	1. カブスカウトにプログラムを魅力的で夢のあるものとして動機付けをすることができる。
§8 プログラム展開の実施計画	1. 月間プログラム計画を基に、隊集会実施計画書が適切に作成できる。 2. 隊集会につながる組集会実施計画書が作成できる。 3. 隊長として、組集会実施計画書の作成の支援・指導ができる。
§9 プログラム展開の準備活動	1. プログラムの準備・展開を充実させるためのさまざまな資源の活用方法について認識させる。 2. プログラムの実施展開のための役割分担、資材準備、安全管理ができる。
§10 プログラム実習	1. 計画書に基づいて組集会・隊集会を実際の活動として展開することができる。 2. 表彰や進歩記章の伝達の場を、スカウトの意欲を高めるための動機付けとして活用することができる。 3. スカウトに、夢のある魅力的な野外活動プログラムを提供できる。
§11 プログラムの評価	1. プログラムには、達成すべき目標があることを理解し、実施後の評価ができる。 2. スカウト運動の目的やカブスカウト活動の目標の視点で、プログラムを評価することが重要であることを認識する。 3. §5～10を通して、企画・計画・実施の評価が出来る。
§12 プログラムの改善	1. プログラム実施後の適切な評価を踏まえて、プログラムを改善することができる。 2. 自隊のプログラムの改善点を発見し、より良いものとなるよう見直すことが出来る。
§13 保護者･地域社会へのアプローチ	1. 保護者のニーズ、地域社会のニーズについて認識する。 2. カブスカウト活動では、家庭での活動も重要なため、保護者との良好なコミュニケーションが不可欠であることを認識する。 3. スカウトの成長にとって、スカウト運動が役立つ教育運動であることを保護者に伝えることができる。
§14 キャンプファイア	1. キャンプファイアの体験実習を通じて、その教育的意義を理解する。
§15 第三教程（実務訓練）に向けて	1. 自隊で実施する隊集会プログラムを作成する。
§16 第三教程（実務訓練）に向けて	1. 第三教程（実務訓練）の意義を理解し、その具体的な取り組の方法を計画する。 2. 隊長に必要な知識・技能・心構えを理解し、自己研鑽を進めることができる。 3. インサービス・サポートについて理解する。

(3) ボーイスカウト課程

セッション名	目　　標
§1 実修所について	1. ウッドバッジ実修所の目的と目標を理解する。 2. ウッドバッジ実修所の運営を理解する。 3. コースの日程を理解する。

§２　指導者の役割と責務	1. ボーイスカウト隊における指導者の役割とその責務を再確認し理解する。 2. 自己の訓練ニーズを整理し認識する。
§３　隊集会	1. ボーイスカウト隊の標準的な隊集会を体験し、自隊の組織と運営上の問題点と課題を認識する。 2. 実施した隊集会について評価する。
§４　ボーイスカウト隊のプログラム	1. プログラムプロセスの要素を理解する。 2. ボーイスカウト隊の活動の目標とプログラムの関係を深く理解する。 3. スカウト教育法に沿ったプログラム展開について認識する。 4. 班制教育と進歩制度がプログラムに深くかかわることを理解する。 5. 年間プログラムの重要性を理解し、活用ができる。
§５　プログラム企画	1. ボーイスカウト隊のプログラムプロセスに沿った、プログラム企画・立案ができる。 2. スカウトスキルを活用したプログラム企画ができる。 3. スカウトの自発活動を促すプログラム企画ができる。 4. 班長会議の支援ができる。
§６　プログラム計画	1. 企画に沿った隊集会計画書を作成できる。 2. 班制教育と進歩制度を十分に活かしたプログラムの展開ができる。 3. 班長訓練の重要性を理解し、班長訓練計画書の作成ができる。 4. 班長が班集会計画書を作成できるよう、指導ができる。
§７　プログラム実習Ｉ	1. プログラムの実施展開について実際に必要な項目を理解する。 2. 活動における隊長の役割と責務を理解する。
§８　プログラム評価	1. 活動後の評価の必要性について理解する。 2. 評価の方法について理解する。 3. 評価を行うことができる。
§９　ちかいとおきて	1. スカウト運動の原理を理解し、「ちかい」と「おきて」の関連性を理解する。 2. ボーイスカウト年代の特性を理解し、「ちかい」と「おきて」の実践を指導ができる。 3. 指導者自らが「ちかい」と「おきて」の実践を行うことの意義を理解する。
§１０　スカウティングの技能	1. プログラム展開の要素であるスカウトスキルの重要性を理解する。 2. プログラムを立案するうえで、隊長として必要なスキルについて理解する。 3. スカウトスキルを習熟する。 4. 班長へスカウトスキルの指導ができる。
§１１　１級旅行の計画（旅行準備を含む）	1. １級旅行のプログラム計画、準備ができる。 2. 隊長として２級スカウトへ１級旅行の指導ができる。 3. １級旅行の教育的意義について理解する。 4. スカウトスキルを活用できる。
§１２　１級旅行（評価を含む）	1. １級旅行が実施できる。 2. 計画の重要性について理解する。 3. 様々なスカウトスキル使い１級旅行を実施できる。

	4. スカウトが１級旅行を行うことによって成長することを、体験を通して理解する。 5. １級旅行の評価をし、評価することが新たなプログラム展開方法に結びつくことを理解できる。 6. 自隊のプログラムに反映することができる。
§１３ プログラム実習Ⅱ（改善）	1. プログラム評価を基に、より良き展開方法を計画できる。 2. プログラム開発の重要性を認識する。 3. プログラムプロセスを再確認する。 4. プログラムの繰り返しが重要ことを認識する。 5. ボーイスカウト活動を通して、スカウトの成長に貢献できる。
§１４ 成人の支援と社会へのアプローチ	1. ボーイスカウト部門の活動における成人の具体的な活用方法について理解する。 2. 隊を取り巻く成人とのコミュニケーションの重要性を理解する。 3. 指導者自身が地域社会との関係を良好に保つことの意義を理解し、実践できる。
§１５ 隊の運営と班制教育	1. 基本となる隊運営を再認識した上で自隊の運営上の問題を認識する。 2. 班制教育の重要性を理解する。
§１６ 営火	1. スカウティングにおける営火の教育的意義について理解する。 2. 営火の基本的な要素について理解する。
§１７ 第三教程（実務訓練）に向けて	1. コースをふりかえり、自己評価をする。 2. 第三教程（実務訓練）について理解する。 3. 役割と責務を果たすために継続的な自己研修の必要性を理解する。

(4) ベンチャースカウト課程

セッション名	目　　標
§1 実修所について	1. ウッドバッジ実修所の目的と目標を理解する。 2. ウッドバッジ実修所の日程、運営方法を理解する。
§2 チームビルディング	1. 大型工作物の製作と、安全管理が指導できる。 2. 製作作業がチームの一体感を高める効果があることを知る。
§3 指導者の役割と責務	1. ベンチャースカウト隊における指導者の役割とその責務を再確認し、理解する。 2. 自己の訓練ニーズを整理し認識する。
§4 高度な野外活動	1. 高度な野外活動を理解し、指導や支援ができる。 2. ベンチャースカウトと高度な野外活動の関連性を理解する。 3. 高度な野外活動の行うことによる効果とリスク対策を理解する。
§5 歓迎の営火	1. 第二教程(基本訓練)へのモチベーションを高め、スカウトとの親睦方法を学ぶ。
§6 ちかいとおきて	2. スカウト運動の原理を理解し、「ちかい」と「おきて」の関連性を理解する。 3. ベンチャースカウトに「ちかい」と「おきて」を認識できるように指導ができる。

	4. ベンチャースカウト年代の特性を理解し、「ちかい」と「おきて」の実践について指導ができる。 5. 指導者自らが「ちかい」と「おきて」の実践を行うことの意義を理解する。
§7 ベンチャープログラム	1. ベンチャースカウト部門におけるスカウト教育法の各要素の関連性を理解し、具体的行動を理解する。 2. ベンチャースカウトの活動目標を理解し、各項目の具体的な活動を指導と支援ができる。 3. ベンチャープログラムはスカウトのニーズや環境に適応して、柔軟に対応することを理解する。
§8 ベンチャー活動 I (構想・企画)	1. スカウトのニーズを引き出し、プログラムに発展させることを理解させる。 2. プログラムの骨子(概要)を明瞭にする企画書をスカウトが作成できるように指導と支援ができる。
§9 ベンチャー活動 II (計画)	1. プログラム企画書から、プログラムの具体性を高めて、計画書の作成の指導と支援ができる。 2. スカウトが計画書を作成する際に必要な知識と技能を知り、指導と支援ができる。
§10 ベンチャー活動 III (実習)	1. 計画書に沿って実習し、実施に向けた指導と支援ができる。 2. プログラム実施時の留意すべき事項を理解する。
§11 アドベンチャー旅行	1. 1泊移動キャンプを体験し、ベンチャースカウトの野外活動の意義を理解する。 2. 実施後に、報告書を作成し、参加者で気づきを共有する。 3. 計画、実施、報告の各段階の体験からスカウトへの指導や支援を理解する。
§12 ベンチャー活動 IV (評価)	1. スカウトのプログラム実施の報告書作成を指導と支援できる。 2. プログラム全般の評価について観点や方法を理解し、スカウトが次の活動に向けてモチベーションを高める指導と支援ができる。
§13 社会へのアプローチ	1. ベンチャースカウトがスカウト組織外での活動することの意義を理解し、広く地域社会での活動ができるように支援することができる。 2. 地域社会で実施する活動(協同、貢献)について留意すべき事項を理解する。 3. 指導者自身が地域社会との関係を良好に保つことの意義を理解し、実践できる。 4. 地区、都道府県連盟、日本連盟の各々のレベルでの活動を支援できる。
§14 プログラムの改善	1. スカウトが段階的に進歩・成長するようにプログラムの改善を指導と支援ができる。
§15 なごりの営火	1. 営火によって参加者の実務訓練へのモチベーションを高める。
§16 第三教程 (実務訓練)に向けて	1. 第三教程の進め方を理解し、上級訓練の修了を目指す。

２．第三教程（実務訓練）の取組みにあたって

第二教程（基本訓練）を終えて各地域へ戻った参加者は、第二教程（基本訓練）研修中の班担当（グループ担当）と連絡を取って、指導・助言を受けることはありません。第二教程（基本訓練）を履修した段階で参加者の支援は県コミッショナーにお願いすることになります。ですから、参加者とは出来るだけはやく接触する機会を持ち、実務訓練への取組計画を一緒に立案するようお願いします。

第三教程（実務訓練）は、ビーバースカウト課程、カブスカウト課程、ベンチャースカウト課程については、第二教程（基本訓練）で策定したプログラムを実際に自隊で展開する必要があります。BS については第二教程（基本訓練）の中でプログラムプロセスを学び、それを生かして、自隊でプログラムを立案し展開する必要があります。

年間プログラムの予定などもあり、すぐに実行に移すことができないことも考えられるので、一年間という期間を設けています。あわせて、参加者が第二教程（基本訓練）の最後のセッションで、課程によっては第三教程（実務訓練）に向けての自己研修計画を策定しますので、この内容についてもその意図を確認し、どのように取り組めばよいかアドバイスをお願いします。

面談では、無事第二教程（基本訓練）が終わったことを報告されると思います。まずは参加のねぎらいと体調の変化の有無、生活全般などの話題からはじめて頂いてよいと思います。
素早い取組みが良い支援につながり、結果的に修了率が向上することにもつながります。

参加者は、第二教程を履修した結果モチベーションが向上し、学習を通じて「これなら出来る」「こうすれば解決できる」という自信や確信を持った反面、「自隊で本当に実践出来るだろうか」「他の指導者に受け入れてもらえるだろうか」という不安な気持ちを持つことがあります。特に参加者の役務が隊長でない場合にこの傾向が見られ、実務訓練に取り組む中で、参加者自身の急激な変化や積極的な取り組みが受け入れられず、非協力的な状況が顕在化する心配があります。こういったことを防ぐためにもコミッショナーは**各隊の他の指導者や団委員とのコミュニケーション形成を図り、各隊の指導者が一丸となって協力するよう指導・支援する**ことも必要となります。

３．「第三教程（実務訓練）」支援の要点

第三教程（実務訓練）は、隊指導者上級訓練課程における最後の学習段階です。

各課程によって課題の内容は違っていますが、第二教程（基本訓練）で策定したプログラムを実際に自隊で展開し、評価することにより今後の改善点を見いだします。また、自隊でのあらゆる問題点に対しても、改善点を見いだすような支援が必要となります。これらの課題を行う上での**保護者や地域社会へのアプローチの実践と報告**などがあります。

第三教程（実務訓練）によって、参加者が第二教程（基本訓練）での学習の結果を隊の運営に反映するとともに、個々の資質・経験に応じて努力し、今後も隊指導者として意欲的に取り組んでいくことが期待されます。成人であっても青少年と同様に「成し遂げた喜び」成就感、達成感を得られることが次の自己研修につながることをよく認識する必要があります。このため支援にあたっての基本的なあり方は、参加者が実際の隊活動に持続的にかつ意欲的に取り組むことができるように、任務中の支援により必要な時に、必要とされる支援や助言をいつでも受けることができるということを伝える必要があります。

第三教程（実務訓練）の課題内容は、各課程によって表現は異なりますが、第二教程（基本訓練）や第三教程（実務訓練）で策定したプログラムをプログラムプロセスにそって実施･展開し、その中で自隊の改善点を見つけ、解決するための研修計画を立てて実行し、さらに良いものにしていく。という課題そのものが「ＰＤＣＡサイクル」となっています。

さらに、全ての課程で共通なのが、保護者や地域社会へのアプローチです。各課程によってアプローチの仕方は変わってくると思いますが、スカウト活動が開かれたものであり、保護者や地域社会に認知されるべきものである。ということを踏まえ、ご指導ください。

(1)ビーバースカウト課程

課題１：第二教程（基本訓練）で作成した隊集会プログラムを含み、計３回の隊集会実施計画書を作成して実施し、その状況の報告と評価及び今後の改善点について報告してください。

（要点）

第二教程（基本訓練）「§９プログラム企画Ⅱ」で一つ作成、自隊で二つ作成します。

① 隊集会実施計画書記入用紙は自隊の記入用紙を使用してください。（ない場合は隊長ハンドブックの用紙を使っても結構です）

② それぞれの隊集会について、実施した状況と評価をＡ４判縦１枚、横書きでまとめてください。

③ 今後の改善点については、実施した隊集会の状況と評価を踏まえたものを、Ａ４判縦、横書きでまとめ、記述してください。枚数の制限はありません。

④ 改善点は改善点を箇条書きにするだけでなく、改善に至るまでの手順を含め記述してください。

課題２：第二教程（基本訓練）でリストアップした「自隊の課題」について、コミッショナーやトレーナーの支援を受けながら改善計画を立案してください。また、その取り組み状況と評価を報告してください。

（要点）

第二教程（基本訓練）「§１６　第三教程（実務訓練）に向けて」でリストアップした「自隊の課題」について、コミッショナー、トレーナーと話し合い、「具体的な取り組み方法（改善計画）」をたて、その計画にそって実際に展開します。

① Ａ４判縦、横書きでまとめてください。

② 自隊の改善点一項目ごとにまとめてください。

③ 大きな制作物は写真に撮って内容説明とともに添付してください。

④ 音声によるものはＣＤ化するか、朗読原稿を添付してください。

課題３：上記の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会にアプローチした内容と結果を報告してください。

（要点）

課題１・課題２のどちらか一方でも、あるいは両方について行っても良い。

① Ａ４判縦、横書きでまとめてください。

② 単に「○○した」だけを羅列するのではなく、保護者や地域社会の反応を聴取し記入してください。

(2)カブスカウト課程

課題 1：自隊のある月のテーマにより、第二教程（基本訓練）で作成した月間プログラムの手順に従い、プログラム委員(会)・リーダー集会・デンコーチ集会・組長集会・組集会・隊集会を実施し、その状況の報告と評価を記述してください。

① 記入用紙は自隊の記入用紙を使用してください。(ない場合は隊長ハンドブックの用紙を使っても結構です)
② それぞれの集会用紙に記入し、その後ろに状況と評価をＡ４判縦１枚、横書きでまとめてください。

課題２：課題１で実施した月間プログラム（プログラムプロセス）の評価を踏まえて、今後の改善点について記述してください。

① Ａ４判縦、横書きでまとめてください。枚数制限はありません。
② 改善点は改善点を箇条書きにするだけでなく、改善に至るまでの手順を含め記述してください。

課題３：課題１で取り組んだプログラムを実施するにあたり、また今後の隊運営に生かす為に、学習したことや身につけた知識・技能・心構えについて、取り組んだ内容と結果を、報告してください。

① 次の様式に従って項目を作成し、その成果を添付してください。(例)

課題３：課題１に対する隊長としての自己研修	
知識	①その物語の特徴 ②主人公のポーズや言葉 ③主人公の扮装
技能	①デンコーチに対する説明のしかた ②主人公の動き ③表現力をつける
心構え	① スカウトをワクワクさせる演出をイメージする

② 添付するものについて
・文章化したものはＡ４判縦、横書きでまとめてください。
・大きな製作物は写真に撮って内容説明と共に添付してください。
・音声によるものはCD化するか、朗読原稿を添付してください。

課題４：上記の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会にアプローチした内容と結果を報告してください。

① Ａ４判縦、横書きでまとめてください。
② 単に「○○した」だけを羅列するのではなく、保護者や地域社会の反応を聴取し記入してください。

(3)ボーイスカウト課程

課題１：計画した隊集会およびプログラムプロセスの各過程を実施し、その状況報告と評価および今後の改善点について、報告書としてまとめてください。

① 状況報告については、実施内容がわかるよう簡潔に記述し、写真等を添付するとわかりやすいです。
② 評価及び改善点は箇条書きにするだけではなく、改善については自分自身がどのようにかかわっていくのかを記述してくださし。
③ Ａ４判縦、横書きでまとめてください。枚数制限はありません。

課題２：課題１で作成した実施報告書における評価と改善点に対する自己研修計画を策定し、最低１つの成果を報告してください。

① 課題１の実施後それらをふまえて、以下の項目について自己研修計画として記述してください。
・隊集会において何ができなかったのか。
・どのようなことが困ったのか。
・自分に足りなかったことは何か。
② ①について記述した計画のうち、最低１つの成果（具体的に行った内容）とそれに対して支援者のコメントをつけてください。
③ Ａ４判縦、横書きでまとめてください。添付資料についてはＡ４判ファイルに綴じられるよう工夫してください。

課題３：上記の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会にアプローチした内容と結果を報告してください。

① Ａ４判縦、横書きでまとめてください。
② 単に「○○した」だけを羅列するのではなく、保護や地域社会の反応を聴取し記入してください。

(4)ベンチャースカウト課程

課題１：第二教程（基本訓練）で修得したことを活用・応用し、実行したことを以下の項目についてまとめ、関係する資料を添付して報告してください。
（１）プログラムプロセスでどのようにアドバイス、指導、評価したか
（２）実行後、第二教程（基本訓練）参加前とプログラムがどのように改善されたか
（３）あなた自身、スカウトにどのような変化をもたらしたか
（４）上記（１）～（３）の結果から今後の改善点

① Ａ４判縦、横書きでまとめてください。
② この一連の課題は、プログラムをより豊かなものにするために、隊長としてスカウトにどのように関わったかを報告してもらうものです。プログラムプロセスの様々な場面での関わり、また隊長としてスカウトにどのように接することにより、スカウトがどのように変化・成長していったかを報告するものです。
③ どのような場面で、どのようにアドバイス、指導し評価したのかを、具体的に記述してください。
④ ②によって、プログラムがどのように改善されたか、第二教程（基本訓練）参加前と参加後とを記述し、変化がわかるように記述して下さい。
⑤ さらにプログラムを豊かなものにするために何をしたらよいかを今後の改善点として記述してください。

課題２：上記の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会へのアプローチした内容・結果を報告してください。

① Ａ４判縦、横書きでまとめてください。
② プログラムまたはプロジェクトが自己満足で終わらずに（運動内で終わらずに）、一般社会にこの活動をどれだけ広めることができたのかを検証して下さい。社会への貢献の度合いはどれほどだったかを記述することです。
③ 内部評価で終わらずに外部評価（第三者評価）を得ることによって運動を他に知らしめることができるようになることがねらいです。

※ 上記の報告は作文ではなく、ありのままを記述し評価反省（客観的視点）をすることであり、今後のプログラムおよびプロジェクトの改善をするためのものであることを忘れないでください。

３．第三教程（実務訓練）履修認定と手順について

手順１：第二教程（基本訓練）履修者

① 実務訓練報告書（以下、報告書）に表紙（様式１）添付の上、支援コミッショナー・支援トレーナーに提出し、「指導助言した事項および所感」を記入していただく。

② 所感記入後、**第二教程履修日から１年以内に**報告書を日本連盟事務局へ送付し、所属県連盟へその旨を連絡する。

手順２・３：県連盟事務局・日本連盟事務局

① 所属県連盟は県コミッショナーに日本連盟事務局へ報告書が送付されたことを連絡する。

② 日本連盟事務局は実修所所長に送付する。

手順４：実修所所長

実修所所長は報告書の内容の確認と所見を記入する。その後、日本連盟事務局へ送付する。

手順５・６：日本連盟事務局・県連盟事務局

① 日本連盟事務局は報告書を県連盟事務局に送付する。

② 県連盟事務局は報告書を県コミッショナーに送付し、所見の記入と第三教程履修認定を受ける。

手順７：県コミッショナー

報告書に所見を記入し、履修認定（様式１へ署名）を行い、県連盟事務局に返送する。

手順８：県連盟事務局

県コミッショナーの所見と第三教程履修認定署名を確認し、日本連盟事務局へ様式１のコピーを送付する。

手順９：日本連盟事務局

① 県連盟事務局より提出された様式１のコピーに必要な要件が記入されていることを確認し、修了証を交付する。初めて隊指導者上級訓練を修了した者にはウッドバッジ２ビーズ、ギルウェルウォッグル、ギルウェルスカーフを同送する。

② 提出された様式１のコピーは日本連盟で保管する。

手順１０：県連盟事務局

① 修了者へ修了証およびウッドバッジ他を伝達する。

② 修了者に報告書を返却する。

③ 修了者は、今後の自己研鑽のための資料として大切に保管する。

４．ウッドバッジとギルウェルスカーフについて

ウッドバッジ実修所の全教程を修了した方には、ウッドバッジ２ビーズとギルウェルスカーフ、およびウォッグルが授与されます。ウッドバッジは各国で、上級訓練を修了した隊指導者に授与されています。

前項でもふれたようにウッドバッジを着用することは、**「必要な訓練を修了し、いつでも指導者として奉仕する準備ができている」**ことを自他ともに認めたしるしであるため、自隊での通常の活動時にも着用します。

ウッドバッジが訓練修了者に授与されることになった経緯が、世界スカウト機構発行書籍「アダルトリソーシスハンドブック」に記述されているのでご紹介します。

スカウティングは1907年に始まりましたが、「成人指導者訓練」と後に呼ばれるようになったものも、スカウト運動自体と同じくらい古いものです。Ｂ-Ｐは、自身が考案したものを広め、スカウティングの自然な成長を支援することにほとんどの時間を割いていましたが、草創期には隊長訓練にも関わっていました。個人的には1911年と1912年に２回コースを運営していますが、このコースにおいて、彼は夜間のセッションとして一連の講話を行いました。後に「ウッドバッジ訓練」となるはずのものの主な方針と特性は1913年の時点で早くも確立されていました。訓練はパトロールシステムを通して理論と実践をバランス良く組み合わせて提供されました。しかしこれが訓練の原型として定型化されることはありませんでした。

第１次世界大戦後になりスカウティングが驚くべき成長を再開してはじめて、Ｂ-Ｐは指導者の善意と情熱に対して相応しい訓練を加えるという問題に本気で取りかかりました。「私が死んでも、将来のスカウティングの指導者がスカウティングとは何であるか、私の意図が何であったのかを確実に理解できるようにする」ためでした。

この目的を達成するためには、プログラムと場所が必要でした。ギルウェルパークという場所は1918年にＢ-Ｐが見つけました。ド・ブァ・マクラーレン氏（Mr. de Bois Maclaren）の寛大なはからいによりこの場所は1919年にイギリス連盟の財産になり、スカウトのためのキャンプ場とスカウト指導者のための訓練センターが造成されました。最初の訓練コースがここで1919年９月８日に始まり、1913年に設定された基本的な方針に沿って運営されました。『隊長の手引き（*Aids to Scoutmastership*）』も同じ年に出版されました。このコースにはすべての要素が網羅され、基本原則を扱う理論編と、１週間のキャンプによる実践編と、訓育の現場で完成されるべき組織運営編からなる完全な定型が作り出されることになりました。最初期から、訓練場所と訓練手法とコース運営に携わった

最初のウッドバッジはディニズルというズールー族の族長が所有していたネックレスから作られました。これは1888年Ｂ-Ｐが現役の時にズールーランドで見つけたものです。ディニズルは儀式の時に、南アフリカ産のアカシア・イェロー・ウッドで作ったおよそ1000個のビーズから成る12フィートの長さのネックレスを着用していました。この木は芯が柔らかく、生革の紐を端から端までかんたんに通すことができます。こうして1000個ものビーズが並べられるのです。ビーズそのものの大きさは小さな記章のようなものから、長さ10cmほどのものまであります。ネックレスは聖なるものと考えられ、王族や傑出した戦士に贈られる勲章でした。

Ｂ-Ｐは、ギルウェル訓練を修了した人々を称えるための記念品のようなものを探している時に、マフェキングで長老のアフリカ人からもらったディニズルのネックレスと革紐のことを思い出しました。Ｂ-Ｐは小さい方のビーズを二つ取り、芯をくり抜き、革紐をそこに通し、それをウッドバッジと呼んだのです。

この伝統は歳月を経て多くの各国連盟で維持され、ウッドバッジはいまでも上級訓練を修了した隊指導者に授与されています。

(World Adult Resources Hand book 2007 103 章：歴史的背景　より抜粋)

ギルウェルスカーフは、ウッドバッジ実修所の修了者のみが着用できるネッカチーフです。イギリス連盟がギルウェルパークを取得するにあたって尽力された、マクラーレン家のキルトの紋様（家紋）であるタータンの布章（パッチ）がつけられ、表面は肌色に近い色、裏の赤色は「指導者としての情熱を表す」色とされています。当初はマクラーレン家に敬意を表すために、マクラーレン家の家紋のタータン柄スカーフを着用したことがはじまりです。

その後、マクラーレン家のタータンは布章（パッチ）としてスカーフの先端に縫い付ける形になり、1924 年からはウッドバッジを授与された者のみが着用できるよう、その使用が制限されました。

なお、ギルウェルスカーフは原隊と共に活動する際には着用しないことになっています。原隊での活動の際には、原隊のネッカチーフにウォッグルとウッドバッジを着用することになります。

おわりに

日本連盟における指導者訓練体系の中で、隊指導者訓練はその中核をなすものです。訓練の効果を確実なものにするためには、コミッショナーとトレーナーの支援が必要不可欠です。指導者訓練の支援は、コミッショナーとトレーナーに課せられた多くの任務の中でも特に重要な任務であることを再認識するとともに、支援のクオリティを高めるための一助として本書をご活用いただければ幸いです。

しかし、最も大切な支援は、「訓練の成果を活かして、よりよいスカウト活動を提供できるようにすること」であることを認識し、実修所修了後の指導者の皆さんへの継続的なご支援をお願い申し上げます。

課題研究提出用紙

ウッドバッジ実修所
第一教程（課題研究）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿課程　　提出日：　　年　　月　　日

ふりがな		性別	男　・　女
氏　　名			
所　　属	＿＿＿＿連盟（＿＿＿＿地区）＿＿＿＿第＿＿＿団＿＿＿＿隊（役務）＿＿＿＿		

課題研究	指導をした人		指導・助言した内容
	役　務	氏　名	
課題１			
課題２			
課題３			
課題４			
課題５			
課題６			

課題研究を履修したことを認定します。

年　　月　　日

認定トレーナー署名（ＬＴ・ＡＬＴ）（氏名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＜ビーバースカウト課程＞

課題１	①自隊における保護者のニーズを調査し、集約してください。また調査した方法も書いてください。 ②自隊のスカウトを観察し、スカウトが興味ある事柄を列挙してください。
課題２	課題１のニーズ等にビーバースカウト隊の活動目標を加味し、自隊で実施する隊集会実施計画書（１回分）を作成してください。
課題３	自隊の年間プログラムを評価します。隊集会ごとに評価し、問題があれば改善策とその理由を示してください。（年間プログラムを添付してください。）
課題４	①団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。 ②課題２の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。
課題５	スカウトを集会に参加させるために自隊で工夫していることを記述してください。さらに今後工夫しようと考えていることがあればあわせて記述してください。
課題６	プログラム作成において、自身が解決したい問題について列挙してください。

＜カブスカウト課程＞

課題１	①自隊における保護者のニーズを調査し、集約してください。また調査した方法も書いてください。 ②自隊のスカウトの憧れや興味を調査し、集約してください。 ③地域社会におけるカブスカウト隊に対する期待を調査し、集約してください。
課題２	隊集会を行うためのプログラムプロセスを図示し、留意点を記述してください。
課題３	課題2で示したプロセスと自隊のある月の月間プログラムのプロセスを比較し、問題があれば改善案とその理由を示して下さい。（プログラムプロセスには、リーダー集会・デンコーチ集会・組長集会・組集会（１回～２回）・隊集会が含まれる。）
課題４	①団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。 ②課題３の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。
課題５	カブ隊の活動目標や進歩のあり方について、自隊の年間計画をふりかえり、その改善点を考えてください。（年間プログラムを添付してください。）
課題６	プログラム作成において、自身が解決したい問題について列挙してください。

＜ボーイスカウト課程＞

課題１	班長会議を開催し、スカウトの憧れや興味を新たに集約し、 ①隊集会　②班長訓練　の各計画書を作成してください。
課題２	①ボーイスカウト隊リーダーハンドブックを熟読し、プログラムプロセスを図示し、留意点を記述してください。（プログラムプロセスには、班集会、班長会議、班長訓練、班集会（班の活動）、隊集会が含まれていること） ②自隊で行われているプログラムプロセスを図示してください。
課題３	自隊の現在の年間プログラムを活動内容および進歩課程の観点から評価し、改善点を記述してください。
課題４	①団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。 ②課題１の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。
課題５	実際に行われた隊集会１回分について、想定文を含めた計画書を持参するとともに、プログラムプロセスの各過程それぞれの評価と改善点を記述してください。（行われていないプロセスの過程については行うための改善策を記述してください。）
課題６	プログラム作成において、自身が解決したい問題について列挙してください。

＜ベンチャースカウト課程＞

課題１	スカウトのニーズにより作成された隊集会、またはプロジェクトの計画書作成までの間において、隊長として留意し、指導した点を記述してください。
課題２	ベンチャースカウト年代の特性を理解し、自治の活動により個人の成長を図るために、隊長の役割を果たす上で資質を向上するための自己研修をおこない、その内容・結果をまとめてください。
課題３	隊における役割（議長、グループのチーフ、記録、会計等）を遂行するために必要な、スカウトに対する訓練についてまとめてください。
課題４	①団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。 ②課題１の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。
課題５	ベンチャー隊の活動におけるプロジェクトとは何か、あなたの考えをまとめてください。
課題６	プログラム作成において、自身が解決したい問題について列挙してください。

実務訓練提出用紙（ＢＳ課程）

ウッドバッジ実修所 第三教程（実務訓練）
ボーイスカウト課程

実務訓練は、ウッドバッジ実修所第二教程（基本訓練）を履修の後、履修者がどのように隊の指導をしたか、その状況をありのままに報告するものです。

したがって、第一教程（課題研究）や第二教程で得たものが、隊の運営にどのように反映し、隊活動がどのように改善されたか、また配慮した結果、隊活動がどのように変化し、進歩したかについて記録することです。

自分の隊をよくするために、どのように努力したのか、あなたの実践した記録をまとめ、自己評価とあわせて報告してください。

＜課題＞

課題１　計画した隊集会およびプログラムプロセスの各過程を実施し、その状況報告と評価および今後の改善点について、報告書としてまとめてください。

課題２　課題１で作成した実施報告書における評価と改善点に対する自己研修計画を策定し、最低１つの結果を報告してください。

課題３　上記の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会にアプローチした内容と結果を報告してください。

以上、第二教程履修後の実務訓練を、コミッショナーやトレーナーの支援を受けながら報告書を取りまとめ、実績を立証する記録資料（作成物や活動状況の写真など）を添付して、**第二教程履修日から１年以内に**、日本連盟事務局へ提出してください。

＜注意事項＞

１．報告書は、Ａ４判横書きに記し、表紙をつけ課題ごとに問題を記述します。とじ方は、左とじとします。

２．実務訓練報告書の提出先は、所属県コミッショナーとして、県連盟事務局へご提出ください。

３．提出期限までに、実務訓練報告書を提出してください。

＜様式１（Ａ４判）＞

ウッドバッジ実修所 第三教程（実務訓練）

課程第　　期

所　　属	連盟　　第　　団　　隊 （役　務）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
登録番号	
フリガナ 氏　　名	
住　　所	〒 TEL：

課題	指導助言した事項および所感	指導した人
1		
2		
3		
4		

実修所所長の所見

署　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

県コミッショナー所見・履修認定

年　　月　　日

署　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※県コミッショナー履修認定後、本状コピーを日本連盟事務局へお送りください。

※日本連盟処理欄		修了年月日 年　　月　　日

第三教程（実務訓練）履修認定手順と書式について

第二教程履修者が、支援を受けながら実務訓練に取り組めるようにするために、支援がより明確に受けられる流れになっています。

支　　援

１．第三教程（実務訓練）の取り組み時の支援

第二教程（基本訓練）履修者は、コミッショナーやトレーナーの支援を受け、実務訓練に取り組みます。

２．報告書の完成時の支援

支援者（コミッショナーやトレーナー）に「指導助言した事項および所感」を＜様式１＞に記入していただきます。

３．報告書完成後の支援

① **実修所所長の確認と所見を**＜様式１＞に記入していただきます。
② **県コミッショナーの所見を＜様式１＞に記入していただき、履修認定を行います。**
③ **隊指導者上級訓練課程修了者として、今後も自己研修に取り組みます。**

第三教程（実務訓練）履修認定手順

手順１：第二教程履修者

① 実務訓練報告書（以下、報告書）に表紙（様式１）添付の上、支援者（コミッショナーやトレーナー）に提出し、「指導助言した事項および所感」を記入していただく。
② 所感記入後、第二教程履修日から１年以内に報告書を日本連盟事務局へ送付し、所属県連盟へその旨を連絡する。

手順２・３：県連盟事務局・日本連盟事務局

① 所属県連盟は県コミッショナーに日本連盟事務局へ報告書が送付されたことを連絡する。
② 日本連盟事務局は実修所所長に送付する。

手順４：実修所所長

実修所所長は報告書の内容の確認と所見を記入する。その後、日本連盟事務局へ送付する。

手順５・６：日本連盟事務局・県連盟事務局

① **日本連盟事務局は報告書**を県連盟事務局に送付する。
② 県連盟事務局は報告書を県コミッショナーに送付し、所見の記入と第三教程履修認定を受ける。

手順７：県コミッショナー

報告書に所見を記入し、履修認定（様式１へ署名）を行い、県連盟事務局に返送する。

手順８：県連盟事務局

県コミッショナー所見と第三教程履修認定署名を確認し、日本連盟事務局へ様式１のコピーを送付する。

手順９：日本連盟事務局

① 県連盟事務局より提出された様式１のコピーに必要な要件が記入されていることを確認し、修了証を交付する。初めて隊指導者上級訓練を修了した者にはウッドバッジ２ビーズ、ギルウェルウォッグル、ギルウェルスカーフを同送する。
② 提出された様式１のコピーは日本連盟で保管する。

手順１０：県連盟事務局

① 修了者へ修了証およびウッドバッジ他の伝達をする。
② 修了者へ報告書・様式１の原本を返却する。
③ 修了者は、今後の自己研鑽のための資料として大切に保管する。

実務訓練履修認定手順〈フロー〉

第二教程履修者および県連盟（事務局、県コミッショナー）	日本連盟事務局	実修所所長
手順 1:第二教程履修者 ① 実務訓練報告書を作成、表紙（様式１）を添付して、支援者に助言を受ける。 ② 報告書を第二教程履修日から１年以内に日本連盟事務局へ提出し、その旨を所属県連盟事務局へ連絡する。 **手順 2:県連盟事務局** ① 県コミッショナーに日本連盟事務局へ報告書が送付されたことを連絡する。	**手順 3:日本連盟事務局** ① 必要資料の内容を確認し、当該実修所所長宛に送付する。 ※ 報告書原本を送付 **手順 5:日本連盟事務局** ① 必要資料の内容を確認し、履修者の所属県連盟の県コミッショナー宛に送付する。	**手順 4:実修所所長** ① 実務訓練内容を確認し、所見を記載する。 ② 内容物一式を日本連盟事務局へ返送する。
手順 6:県連盟事務局 ① 必要資料の内容を確認し、県コミッショナーに送付する。 **手順 7:県コミッショナー** ① 実務訓練内容を確認し、所見を記載、表紙(様式1)へ署名し、履修認定を行う。 ② 内容物一式を県連盟事務局へ送付する。 **手順 8:県連盟事務局** ① 所見内容および履修認定を確認し、表紙(様式1)をコピー、原本を保管する。 ② 表紙(様式1)を日本連盟事務局へ送付する。 ※ データをメール送付 ※ 様式1の原本は、報告書とともに、県連盟事務局で保管する。 **手順 10:県連盟事務局** ① 履修者に対して、修了認定されたことを通知する。 ② 履修者あらため修了者に対して、修了証を伝達する。 ③ 事務局は、実務訓練報告書を本人へ返却する。	**手順 9:日本連盟事務局** ① 表紙(様式1)の必要事項を確認し、修了証を交付する。 ② 提出された様式1のコピーは日本連盟で保管する。 ③ 実修所所長に、履修者が修了認定されたことを通知する。	

ウッドバッジ実修所「課題研究」「実務訓練」支援の手引き

平成 24 年 12 月	発行
平成 25 年３月 22 日	一部訂正
平成 25 年 12 月２日	一部改訂
平成 26 年３月１日	一部改訂
平成 28 年２月１日	一部改訂
平成 31 年２月１日	一部改定
令和 6 年 12 月 1 日	一部改定
令和 7 年 10 月 19 日	一部改定

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
Adults in Scouting (AIS) 委員会　編

発行　公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟